

令和五年度

渋谷教育学園渋谷中学校 入学試験問題

国語

※ 解答は、必ず解答用紙の指定されたところに記入しなさい。

※ 「〇〇字で」、または「〇〇字以内で」、という指示がある場合は、「。」「、」「

「かっこ」なども一字と数えます。

— 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。本文の上にある数字は行数を表します。

【両親の離婚により、母に連れられ、祖母の住む街に引っ越した小学六年生の宮本草児。転校初日にクラスメイトから「しゃべり方が変」だと笑われ、それ以来学校で孤立している草児は、近所の博物館に通いつめていた。】

「シフトの都合」で予定外の休みをもらった母は、同じ理由で休みがなくなった。十連勤だなんて冗談じゃないよとほやいていたのは最初の数日だけで、①ナカは頃になると家にいる時は無言でテーブルにつぶしているだけの、物言わぬ生物になった。祖母はなんだか近頃調子が悪いといつて、日中も寝てばかりいた。

古生代の生物たちも、こんなふうに関渉し合うことなく、暮らしていたのかもしれない。同じ家の中にいても、ほとんど言葉を交わさない。母や祖母の気配だけを感じつつ、ひとりで食卓に置かれたパンや釜めしを食べた。

味がぜんぜんわからなかった。給食もそうだ。甘いとも辛いとも感じない。②誰かと同じ空間にいても、人間は簡単に「ひとり」になるものだと、こんなふうになるずっと前から知っていた。

博物館の前に立ち、「本日休館日」の立て札を目にするなり、動けなくなってしまった。今日は木曜日だということをすっかり忘れていた。一色の絵の具で塗りつぶしたような毎日の中で、曜日の感覚が鈍っていたのかもしれない。

③ワチャーというような声が頭上から降ってきて、振り返った。このあいだムササビの骨格標本を見上げていた男が草児のすぐ後ろに立っていた。今日は灰色のスーツを着ている。男の指がすつと持ち上がって、立て札を指す。ちよつと異様なぐらいに長く見える指だった。

「きみ知ってた？ 今日休みって」

「うん」

男があまりに情けない様子だったので、つい警戒心がゆるみ「知ってたけど忘れてた」と反応してしまう。

「そうかあ」

中に入れないのならば、帰るしかない。背を向けて歩き出すと、男も後ろからついてくる。公園から出るには同じ方向に向かうしかないからあたりまえのことなのだが、気になって何度も振り返ってしまう。

「どうしたの？」

草児の視線を受けとめた男が、ゆつたりと口を開く。なにを勘違いしたのか「なに？ 腹減ってるの？」と質問を重ねる。違う。とつさに答えたが、嘘だった。腹は常に減っている。

④男のアクセントはすこしへんだった。このあたりの人とも、草児とも違う。そのくせ、すこしも恥じてはいないようだ。

「あ、これ食う？」

書類やノートパソコンが入っているような鞆から、蒲焼ききん太郎が出てきた。差し出されたそれを草児が黙って見ていると、男はきまりわるそうに下を向き、⑤ポウソウを破いて、自分の口に入れた。

「そうだな、あやしいよな。知らないおじさんが手渡してくる蒲焼ききん太郎なんか食べちゃだめだ」

⑥しっかりしてるんだな、えらいな、うん、と勝手に納得し、男はベンチに座った。鞆から、つぎつぎとお菓子が取り出される。いくつかのお菓子には見覚えがあり、そのほかははじめて目にする。うまい棒とポテトスナックは知っているが、なんとかボールと書いてあるお菓子は知らない。

「あの、なんで、そんなにいっぱいお菓子持ってるの」

⑦おそろおそろ問う。この男は草児が知っているどの大人とも違う。男はすこし考えてから「さあ？」と首を傾げた。自分自身のことなのに。

「安心するから、かな」

⑧うまい棒を齧りながら、男は「何年か前に出張した時に」と喋り出した。帰りの新幹線が事故で何時間もとまったまま、という体験をしたのだという。いつ動き出すのかすらまったくわからなくて、不安だった。でも、新幹線に乗る前に売店で買ったチップスターの筒を握りしめていると、なぜか安心した。その時、思いもよらないものが気持ちを支えてくれることもあるんだな、と知った。あれは単純に「食料がある」という安心感ではなかった、たとえば持っていたのが乾パンなどの非常食然としたものだったらもっと違った気がする、だからお菓子というのは自分の精神的な命綱のようなものだと思ったのだ、というようなことをのんびりと語る男に手招きされて、草児もベンチに座った。いつでも逃げられるように、すこし距離をとりつつ。

草児が背負っていたリュックからオレンジマールガムのボトルを出すと、男は「なんだよ、持ってるじゃないか」とうれしそうな顔をする。自分のガムはただのおやつであって、命綱なんかではない。

ち やっぱへんなやつだ、と身を引いた拍子に、手元が狂った。容器の蓋が開いてガムがばらばらと地面にこぼれ落ちる。草児は声を上げなかった。男もまた。映画館で映画を観るように、校長先生の話を聞くように、唇を結んだまま、丸いガムが土の上を転がっていくのを見守った。⁽³⁾ 気づいた時にはもう、涙があふれ出てしまっていた。頬を伝っていく滴は熱くて、でも顎からしたたり落ちる頃には冷たくなっていた。どうして泣いているのか自分でもよくわからなかった。ガムの容器の蓋をちゃんとしていていなかったこと。博物館の休みを忘れていたこと。男が蒲焼きさん太郎を差し出した時に、蘇った、文ちゃんと過ごした日々のこと。楽しかった時もいっぱいあった。

それなのに、どうしても文ちゃんに嫌だと言えなかったこと。嫌だと言えない自分が恥ずかしかったこと。別れを告げずに引越してしまったこと。

父が手紙をくれないこと。自分もなにを書いていいのかわからないこと。

今日も学校で、誰とも口をきかなかったこと。算数でわからないところがあったこと。でも先生に訊けなかったこと。

50 母がいつも家にいないこと。疲れた顔をしていること。祖母から好かれているのか嫌われているのかよくわからないこと。いつも自分はここにいていいんだろうかと感じることに。

男は泣いている草児を見てもおどろいた様子はなく、困惑するでもなく、かといって慰めようとするでもなかった。ただ「いろいろ、あるよね」とだけ、言った。

「え」と訊きかえした時には、涙はとまっていた。

55 いろいろ、と言った男は、けれども、草児の「いろいろ」をくわしく聞きだそうとはしなかった。

「いろいろある」

草児が繰り返すと、男は食べ終えたうまい棒の袋を細長く折って畳みはじめる。

「ところできみは、なんでいつも博物館にいるの？」

「だよ、いつもいるよね？」と質問を重ねる男は、草児がいつもいるとわかるほど頻繁に博物館を訪れているのだ。

80 「恐竜とか、好きだから」

大人に好きなものについて訊かれたら、かならずそう答えることにしている。嘘ではないが、太古の生物の中でもとりわけ恐竜を好むわけでは

ない。にもかかわらずそう言うのは「そのほうがわかりやすいだろう」と感じるからだ。そう答えると、大人は「ああ、男の子だもんね」と勝手に納得してくれる。

「あと、もっと前の時代のいろんな生きものにも、いっぱい、いっぱい興味がある」

55 他の大人の前では言わない続きが、するりと口から出た。

エディアカラ紀、海の中で、とつぜんさまさまなかたちの生物が出現しました。

体はやわらかく、目やあし、背骨はなく、獲物をおそうこともありませんでした。

エディアカラ紀の生物には、食べたり食べられたりする関係はありませんでした。

図鑑を暗誦した。

70 草児は、⁽⁴⁾ そういう時代のそういうものとして生まれたかった。同級生に百円をたかられたり、喋っただけで奇異な目で見られたり、こっちはこっちでどう見られているか気にしたり、そんなじやなく、静かな海の底の砂の上で静かに生きているだけの生物として生まれたかった。

「行ってみたい？ エディアカラ紀」

唐突な質問に、うまく答えられない。この男は「エディアカラ紀」を観光地の名かなにかだと思っているのではない。

「タイムマシンがあればな」

75 でも操縦できるかな。ハンドルを左右に切るような動作をしてみせる。

「バスなら運転できるんだけどね。おれむかし、バスの運転手だったから」

男の言う「むかし」がどれぐらい前の話なのか、草児にはわからない。わからないので、黙って頷いた。むかしというからには今は運転手ではなく、なぜ運転手ではないのかという理由を、草児は訊ねない。男が「いろいろ」の詳細を訊かなかったように。

男がまた、見えないハンドルをあやつる。

80 「瞬ほんと間にバスに乗っているような気がした。バスが、長い長い時空のトンネルをぬけて、しびきを上げながら海に潜っていく。いくつもの水泡が、窓ガラスに不規則な丸い⁽⁵⁾モヨウを走らせる。

視界が濃く、青く、ソマッていく。

海の底から生えた巨大な葉っぱのようなカルニオディスクス。楕円形にひろがるディッキンソニア。ゆったりとうごめく生きものたち。自分は

85 それらをいちいち指さし、男は薄く笑って応じるだろう。バスは音も立てずに進んでいく。砂についたタイヤの跡はやわらかいカーブを描き、その上を、図鑑には載っていない小さな生きものが横断する。

そこまで想像して、でも、と呟いた。

「もし行けたとしても、戻ってこられるのかな？」

タイムマシンで白亜紀に行ってしまうアニメ映画を、母と一緒に観たことがある。その映画では、途中でタイムマシンが恐竜に踏み壊されていた。その場面は強烈に覚えているのに、主人公が現代に戻ってきたのかどうかは覚えていない。

86 男が「さあ」と首を傾げる。さっきと同じ、他人事のような態度で。

「戻ってきたいの？」

そりゃあ、と言いかけて、自分でもよくわからなくなる。

「だって、えっと……戻ってこなかったら、心配するだろうから」

草ちゃんがどこにでも行けるように、と母は言ってくれるが、タイムマシンで原生代に行つて二度と帰ってこなかったら、きつと泣くだろう。

95 「そうか。だいたい人がいるんだね」

おれもだよ、と言いながら、男はゆつくりと、草児から視線を外した。

「タイムマシンには乗れないんだ。仕事をさぼって博物館で現実逃避するぐらいがセキノヤマなんだ、おれには」

「さぼってるの？」

男は答えなかった。意図的に無視しているとわかった。そのかわりのように「ねえ、だいたい人つて、たまにやつかいだよ」と息を吐いた。

100 「なんで？」

「やつかいで、だいいだ」

空は藍色の絵の具を足したように暗く、公園の木々は、ただの影になっている。きみもう帰りな、とやつぱりへんな、すくなくとも草児にはへんだと感じられるアクセントで言い、男が立ち上がる。うまい棒のかけらのようなものが空中にふわりと舞い散った。

105 いつもと同じ朝が、今日もまた来る。

トースターに入れたパンを焦がしてしまって、家を出るのがすこし遅れた。教室に入って宿題を出し、椅子に腰を下ろすと同時に担任が教室に入ってきた。あー！ 誰かが甲高い叫び声を上げる。担任はいつものジャージを穿いていたが、上は黒いTシャツだった。恐竜の絵が描かれている。

「ティラノサウルス！」

110 誰かが指さす。せんせーなんで今日そんなかつこうしてんの、と別の誰かが笑う。彼らは先生たちの変化にやたら敏感で、髪を切ったとか手をケガしたとか、そういったことにいちいち気づいて指摘せずにはいられないのだ。

「ちがう」

声を発したのが自分だと気づくのに、数秒を要した。みんながこちらを見ている。心の中で思ったことを、いつのまにか口に出していた。

担任から促されて立ち上がる。椅子が動く音が、やけに大きく聞こえる。

115 「ちがう、というのはどういう意味かな？ 宮本さん」

「……それはアロサウルスの絵だと思います」

「なるほど。どう違うか説明できる？」

「時代が違います。ティラノサウルスは白亜紀末に現れた恐竜で、アロサウルスは、ジュラ紀です」

すべて図鑑の 1 だった。

120 「続けて」

「えっと、どちらも肉食ですが、ティラノサウルスよりアロサウルスのほうが頭が小さい、という特徴があります」

ずっと喋らないようにしていた。笑われるのは無視されるよりずっとずっと嫌なことだった。おそろおそろ目線だけ動かして教室を見まわしたが、笑っている者はひとりもいなかった。何人かは驚いたような顔で、何人かは注意深く様子をうかがうように、草児を見ている。

「ありがとう。座っていいよ。宮本さん、くわしいんだな。説明もわかりやすかったよ」

125 感心したような声を上げた担任につられたように、誰かが「へー」と声を漏らすのが聞こえた。

「じゃあ、国語の教科書三十五ページ、みんな開いて」

なにこともなかったように、授業がはじまる。

国語の次は、体育の授業だった。体操服に着替えて体育館に向かう。体育館はいつも薄暗く、壁はひび割れ、床は傷だらけで冷たい。草児はここに来るたび、うっすらと暗い気持ちになる。

130

体育館シューズに履き替えていると、誰かが横に立った。草児より小柄な「誰か」はメガネを押し上げる。

「恐竜、好きなの？」

「うん」

草児が頷くと、メガネも頷いた。

「ぼくも」

135

そこで交わした言葉は、それだけだった。でも誰かと並んで立つ体育館の床は、ほんのすこしだけ、冷たさがまじに感じられる。

(寺地はるな『タイムマシンに乗れないぼくたち』より)

※蒲焼きさん太郎……お菓子の商品名。以下「うまい棒」「ポテトスナック」「チップスター」「オレンジマール」も同様に菓子の商品名。

※文ちゃん……引越す前に近所に住んでいた幼なじみの文太という少年をさす。文ちゃんのお小遣いが足りなくなると、草児は、強制された

わけではないが、無言の圧力を感じ、一日百円だった自分のお小遣いを文ちゃんに差し出していた。文ちゃんも当然のようにそれを受け取っていた。70行目の「同級生」は文ちゃんのことを指す。

問一——線①④のカタカナを漢字に直さない。漢字は一画ずつにいねいに書くこと。

問二——線①「誰かと同じ空間にいても、人間は簡単に『ひとり』になるものだ」とありますが、それはどういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 実際には自分の周りに人がいたとしても、その人たちが自分の存在に気付かなければ、一緒にいる意味が容易に失われるということ。

イ 実際には自分の周りに人がいたとしても、その人たちを自分が無視していれば、あつという間に自分も無視されるようになるということ。

ウ 実際には自分の周りに人がいたとしても、その人たちと喋らなければ、一人でいる時間が自然と増えていってしまうということ。

エ 実際には自分の周りに人がいたとしても、その人たちの精神的な繋がりを感じられなければ、たやすく孤独な状態に陥るということ。

オ 実際には自分の周りに人がいたとしても、その人たちとの物理的な距離があるうちは、精神的な距離も簡単には縮まらないということ。

問三——線②「靴から、つぎつぎとお菓子が取り出される」とありますが、「男」はなぜお菓子をたくさん持っているのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「男」は草児が知っている他の大人と違い、お菓子を食べることが大好きな、子供のような精神の持ち主だから。

イ 「男」は草児が知っている他の大人と違い、精神が不安定で、お菓子を靴に入れていないと落ち着かないから。

ウ 「男」にとってのお菓子は、心のよりどころのようなもので、精神の安定をもたらしてくれるものだから。

エ 「男」にとってのお菓子は、困った時に自分の命をつないでくれる、必要不可欠で役に立つ存在だから。

オ 「男」にとってのお菓子は、単純に「食料」という枠には収まりきらない、別の価値を持つものだから。

問四

——線(3)「気づいた時にはもう、涙があふれ出てしまっていた」とありますが、この場面における草児についての説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いつでも逃げられるように少し距離をとりつつ、警戒しながら「男」と話をしているときに、突然手元が狂ってガムが地面にこぼれ落ちてしまったことで緊張が極限に達して、思わず涙があふれ出てしまった。

イ 容器の蓋が開いてガムが地面にこぼれ落ちていく様子を見ているうちに、自分の中に蓄積されてきた、思うようにならなかった様々な記憶や経験が一気によみがえってきて、自然と涙があふれ出てしまった。

ウ 「男」のことをへんなやつだと思っていたが、ガムがこぼれ落ちたときに、自分と同じように「男」も声をあげなかったことで何となく共感し合えた気になり、つい気がゆるんで涙があふれ出てしまった。

エ 涙が頬を伝わるときは熱かったのに顎からしたたり落ちる頃には冷たくなっていたという感覚が、かつて自分の内にある熱い思いを口に出したときに受けた周囲からの冷たい反応と重なり、よけいに取り乱してしまっていた。

オ 知らない「男」の前でどうして泣いているのか自分でもよくわからず、早く涙を止めなければいけないと焦ってしまい、身の回りに起こったいろいろな出来事を思い出すことで何とか気を紛らわそうとしていた。

問五

——線(4)「そういう時代のそういうものとして生まれたかった」とありますが、草児が「エディアカラ紀の生物」として生まれたかったと思うのはなぜですか。草児の置かれた状況にふれながら七十六字以上八十五字以内で説明しなさい。

問六

——線(5)「もし行けたとしても、戻ってこられるのかな？」とありますが、これ以降の「男」と草児とのやりとりの部分についての説明としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 「主人公が現代に戻ってきたのかどうかは覚えていない」という映画についての草児の回想には、バスを運転するかのようタイムマシンを操縦する振りをする呑気な「男」とは対照的な、物事を悲観的に捉えがちな草児の性格が表れている。

イ 「戻ってきたいの？」という「男」の言葉は、今の生活が嫌でつまらないものだと思っていた草児に、自分にも捨てることのできない大切なものがあるのかもしれない、という気付きを与えるきっかけとなっている。

ウ 「タイムマシンには乗れないんだ」という「男」の言葉には、面倒で逃げ出してしまいたい現実があったとしても、「だいたいな人」がい

るこの世界から本当に逃げることはできない、という意味が込められている。

エ 「意図的に無視している」という「男」の態度は、冷たいようではあるが、最も触れられたくないプライベートな領域に草児が立ち入ってしまったことで、すぐに返答ができなくなってしまった「男」のとまどいを示している。

オ 「やっかいで、だいたい」という「男」の言葉からは、「だいたい」であるのに「やっかい」でもあるという相反する感情を抱く相手が複数いるということが表現されており、「男」の背後にある複雑な人間関係が感じとれる。

カ 「すくなくとも草児にはへんだと感じられるアクセントで」という草児の感想は、「男」の一風変わったこれまでの言動によって、アクセントまでもが「へん」に聞こえてしまっている草児の思い込みを表している。

問七

1 には、「他人の意見や学説をそのまま自分の説のようにして述べること」を意味する、漢字とひらがなの交じった四字からなる語句が入ります。その語句を、次の中から二つの漢字を用いて答えなさい。

買・売・取・出・受・言・入

問八 次のア～オは、この作品を読んだ生徒たちの感想です。作品の解釈として明らかな間違いを含むものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「笑われるのは無視されるより」(122行目) 嫌なことだと思つて喋らないでいた草児が、みんなの前で恐竜の説明を始めたところに一番心を動かされたよ。その直前にある「いつもと同じ朝」(105行目) という表現によつて、草児の中の何かが変化したことで結果的に「いつもと同じ」ではない日になったことがより印象づけられていると思つたよ。

イ 草児が会つた「男」に興味があるな。泣いている草児を見てもその理由を聞き出そうとはせずに「いろいろ、あるよね」(52行目)と言つたのは、「男」の方にも何か事情があるのだということを示唆している感じがした。「だいじな人」(95行目)の話のときに「おれもだよ」と言いながら「草児から視線を外した」(96行目)というところからもそれがうかがえるよね。

ウ 「男」と草児との関係性が興味深いね。互いに境遇を探ったりしない、距離感を保ったやりとりなのに、「男」と草児は互に通じ合う部分を持つている感じがするよ。「男」が草児に寄り添つた言動をしている部分が所々に見られるけれど、「男」が大人としての自覚をもつて子供である草児を力づけようとしているわけではなさそうだよ。

エ クラスメイトの態度に注目してみたよ。草児が恐竜について説明し始めたときにクラスのみんなが「驚いたような顔で」「注意深く様子をつかがうように」(123行目)見ていたのは、先生を味方につけて孤立した状況を変えようとしている草児の勇氣に感心しながらも、草児のことを笑ひ者にしたことを先生に指摘されるのではないかという警戒心のあらわれだと思つたよ。

オ 体育の時間に草児が「誰か」から話しかけられた場面が印象的だね。体育館に来るたび「うつすらと暗い気持ち」(129行目)になっていた草児が、言葉を交わした後に体育館の床が「ほんのすこしだけ、冷たさがまじに感じられ」(135行目)たのは、草児の孤独感が少しやわらいだことを表しているし、この「誰か」と仲良くなつていくのかな、ということも予感させられるよね。

二

次の文章は、企業などの組織における「インクルージョン」(組織内の誰もが仕事に参画でき、平等に機会が与えられている状態のこと)について考察したものです。これを読んで後の問いに答えなさい。なお、出題の都合上、省略した箇所や表記を改めた箇所があります。

インクルージョンを実現するために、決定的に必要な要素があります。それは「心理的安全性」です。心理的安全性は、英語では Psychological Safety といいますが、文字通りに解釈すれば「一人ひとりが安心して発言・行動できる」ことを意味します。心理的安全性が欠けると、自分が言ったりやったりしたことによって罰せられる恐怖がつきまといまいます。心理的安全性はもちろん個々人の※ウェルビーイングにとっても大事ですが、組織が※インベーションを生み、変化に柔軟に対応し、進化し続けるためにも必須要素となります。

【中略】

心理的安全性を阻害する最も大きな要因の一つとして、アンコンシャス・バイアス (Unconscious Bias) が挙げられます。アンコンシャス・バイアスは、「無意識の偏見」「無意識の思い込み」などと訳されますが、自分ではまったく自覚しておらず、そんなつもりもないのに、実際にはえこひいきをしたり、差別につながるような歪んだ見方をしたりすることを指します。年齢・性別・身体的特徴・シチュエーション・人種など、あらゆる「自分たちとは違う」グループに対して持つ、不公平な偏見である場合が多いといわれています。

現代社会では、明確な差別については様々な方法でそれらを禁止したり、取り除いたりする策が存在しますが、残念なことに、差別に反対する平等主義の人でさえ、無意識の偏見に基づいた判断をしてしまうことがあります。バイアスとは「偏り」のことを指しますが、人の無意識の選択や行動の中に、事実に基づかない偏り——偏見や思い込み——が存在し、私たちの暮らしや人間関係にいつの間にか影響を与えているのです。人は行動の90%以上を無意識で行っているといわれています。自転車に乗るとき「今、右足でこいだから、次は左足」といったふうに考えながら乗る人はいないでしょう。ご飯を食べるときも、無意識に箸が動いているという場合が多いのではないのでしょうか。そうすると、人は無意識に、また無自覚にいろんなことを選択していることとなります。

たとえば電車に乗ったときに、いくつか座る場所が空いていたとしたら、瞬間的に座る場所を選んでいませんか。筆者の場合は自分と同性の、かつ同じくらいの年齢の人の隣に座ることが多いです。これを「親近感バイアス」といいます。私たちは自分と属性や経歴、興味や経験などが

似た人に安心感を覚える傾向があり、無意識にそのような人の近くを選んでしまうのです。

また、災害時など、普段は起きるはずのないことが起きたとき、「まさかこんなことが起きるわけがない」「自分だけは大丈夫」といった思い込みに基づき行動する人が多いといわれています。これは「正常性バイアス」と呼ばれ、人がヨギしない事態に直面したとき、「ありえない」という思い込みから、起きていることが正常な範囲内だと自動的に考えてしまう心の働きを指します。このバイアスによって、災害時に正しい状況把握や身を守るための行動が取れず、避難行動が遅れてしまうといった事態がよく起きるのです。

このように、人は無意識のうちに偏見に基づいた行動をとってしまう、というのがアンコンシャス・バイアスの困ったところなのですが、これがどのようにインクルージョンの実現を阻むかというところを説明したいと思います。

1

たとえば仕事で新しいプロジェクトの担当者や自分の後任、あるいは、会議の参加者などを選ぶ際はどのようにでしょう。また、そのような人がいたら、今度は自分の見解や期待を裏づける情報を無意識に探す「確証バイアス」が働き、自分の選択を裏づけるために、その人のよいところばかりを探し、反対意見や反証する情報を無視したり集めようとしなくなったりします。

有名大卒、有名企業出身、というブランドに圧倒されて、優秀な人材と思いつく「ハロー効果」というバイアスもあります。「〇〇大学出身だから優秀に違いない」といったような決めつけです。逆を「ホーン効果」といいます。たとえば、有名校ではない学校の出身者を「カシヨウ評価するなどし、その人が持つ※ポテンシャルを真つ直ぐに見る目を曇らせてしまう、というやっかいなバイアスです。

こういったアンコンシャス・バイアスが、様々な人の機会を奪っているケースが非常に多くあります。そしてそれらが折り重なって、今の社会に存在する格差や階層がどんどん再生産されていくという状況をつくり出している、といえるでしょう。

ところでアンコンシャス・バイアスについて調べると、その例として以下のようなものをよく目にします。

- ・ 女性は細やかな心遣いができる
- ・ 女性は管理職を望んでいない
- ・ 短時間勤務の社員は仕事より家庭が大事
- ・ 女性は生まれつき、数学の能力が男性より低い
- ・ 男性は家事が下手

これらは無意識の領域に存在する偏見でしょうか。いえいえ、私たちが生活する社会に明示的に存在する価値観です。「固定観念」や「※ステレオタイプ」といつてもよいでしょう。そのほか、「思い込み」「先入観」「レッテル」なども無意識の領域に存在するかもしれませんが、同時に非常に意識的に行っている場合がたぐさあります。たとえば「女性のほうが細やかな心遣いができるから、お客様対応を担当してもらおう」という上司は多いですが、これは明示的に、意識的に選んでいます。すなわち、バイアスは、アンコンシヤスなものと※コンシヤスなものがあり、それらは※潜在意識と顕在意識の両方に存在し、その境界は意外と曖昧であるといえます。そして(1)これらの固定観念が「らしき」に形を変え、他者や自分自身を縛る鎖となり、自由な選択を阻害する要因となっていることも大変多いのです。

「女性は細やかな心遣いができる」という固定観念は、「細やかな心遣いできない女性は女性らしくない」に変わり、「男性は家事が下手」という固定観念は、「男らしい男性は家事などしなくてよい」に変わります。このような固定観念に基づいて選択、行動していると、現在の枠から出ることが難しくなり、既存の役割に他者や自分を当てはめてしまうことを無意識に、日々重ねてしまいます。また、これらの固定観念は社会的少数派を排除する方向に働くという特質を持っており、インクルージョンを阻害する非常に大きな要因となります。

アンコンシヤス・バイアスの中でも、このように言語化できるものについてはむしろ、「固定化され、放置された、見直されないステレオタイプ」というふうにも、表現できるかもしれません。人はそれぞれ、様々な思い込みや偏見を持っています。これがバイアスです。それらについて本音がどうか考えたり、確認したり、検証したり、見直したりといったことをしない状態——いつてみれば、頭の中に野良犬がウロウロしている、という状態を想像してみてください。そして、同じような野良犬を頭の中に放置している人が周りにもいるということが意識化されると、(2)その野良犬が飼犬になってしまい、そのまま飼いつけることによって、どんどんと大きくなってしまいます。また、他の人も飼っているという安心感から、頭の中の野良犬の存在自体に疑問を持たない状態が生まれ、同じ野良犬を飼っている人同士の連帯も生まれます。この野良犬を、「女性は無知であり男性より劣っている」「肌は白いほうが美しい」、または「黒人は白人よりも学力が低い」といった偏見に置き換えて考えてみてください。

このように、潜在的な価値観、ものの見方が顕在化され、それが共有されることによって正当化されるプロセス、これが差別的構造を強化し、再生産しているといえるのではないのでしょうか。このプロセスの存在が、ジェンダーや人種といった格差の問題の解決をより難しくしているのです。

【中略】

「え、これって何がだめなの？」と言われた炎上事例が、特に企業広告においてこれまでにたくさんありました。その一例として、2017年に公開されたユニ・チャームのおむつ「ムーニー」のウェブ動画CMについて取り上げたいと思います。

このCMでは、初めての子育てに孤軍奮闘する一人の母親の姿が描かれています。父親が登場するのは、わずか2シーンで、時間にすれば約4秒。いわゆる「※ワンオペ育児」そのものが描かれ、これまでおむつのCMで描かれてきた幸せいっぱいの子育てから一歩進んだ、「ママのリアル」を描いた広告でした。多くの女性が共感するであろう広告ですが、(3)最後に「その時間が、いつか宝物になる。」というコピーを入れてしまったのです。

この一言について、まったく何も感じない人もいるでしょう。でも一歩引いて考えてみてください。これはワンオペ育児を賛美し、肯定している言葉です。頑張れ、いつか報われるときが来る、と。しかし、そもそもワンオペ育児は肯定されるべき現象でしょうか。産後女性の死亡原因の一位は自殺です。女性だけが家事、育児を担当しなければならぬ、という価値観は「ジェンダーバイアス」です。

この価値観に疑いを持たず、問いを立てることをせずに、あのコピーを採用してしまった制作チームの中には、「お父さんはどこで何をしているの？」と疑義を唱える人がいなかったのでしょうか。そのような問いを立てる人がチームにいたら、あるいはそういうことを発言できる心理的安全性が確保されていたら、あのような広告にはならなかったかもしれません。

アンコンシヤス・バイアス自体、無意識の認知活動であるため、完全に排除することはほぼ不可能です。前述したとおり、人は行動の90%を無意識に行っているといわれていますから、無理もありません。しかし、アンコンシヤス・バイアスが原因で構造的な差別が起きている場合、(4)積極的にアンコンシヤス・バイアスが入る可能性を排除することが必要です。その場合に有効なのが、デザインの介入です。つまり、構造的にアンコンシヤス・バイアスが入り込む余地をできるだけなくするための仕組みを用意するのです。

アメリカのオーケストラでは、長年団員が男性ばかりという状態が続いていましたが、1970年代に入り、オーディションの際に審査員と音楽家の間にカーテンを取りつけ、演奏している人が見えないような仕組みを施したところ、女性団員の比率が飛躍的に伸びました。ゴールドディ

ンとルースという研究者たちが実際のオーディションのデータを使って分析したところ、目隠しをすることで、女性がオーディションの次の段階に進む確率が50%増加し、最終的に女性の候補者が選ばれる確率は7倍になったという結論を出しています。

また、ユニリーバ・ジャパン社は、2020年に採用選考におけるアンコンシャス・バイアスを取り除く目的で、同社の採用選考の過程で、顔写真の提出や応募者への性別に関する一切の項目を排除し、個人の適性や能力のみに焦点を当てた採用をしていくと発表しました。これもデザインの介入のもう一つの例です。

次に、個人レベルで自分が持っている様々な思い込みを問い直し続けることが重要です。つまり、今持っている様々な思い込みを一つひとつ検証しようとする姿勢を持ち続けることです。「今考えていることは、根拠がある事実だろうか」「今言おうとしていることは、言われた相手を傷つけないだろうか」「今自分が下そうとしている決断に、偏見は含まれていないだろうか」といったような具合に、自問自答する姿勢が大切です。そして、誰かが、特に上に立つ人が間違っただけだと思い込みに基づいた言動を取っていると気づいたときに、それを誰かが指摘できるような雰囲気をつくる必要です。ここでは前述した心理的安全性の確保という点を思い出してください。「これを言ったら罰せられるかもしれない」と思ってしまう環境ではなく、「言ってくれてありがとう」と言ってもらえる職場をつくりたいですね。そのために、いろいろな階層の人が安心して発言できるように気を配ったり、⁽⁵⁾ピアボーナス制度を導入したりと、心理的安全性を確保していく方法はいくつでもあります。

(田瀬和夫『SDGs思考 社会共創編』より)

※ウェルビーイング……肉体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態。健康で幸福な生活を送ることができていること。

※イノベーション……革新。新たな考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、変革をもたらすこと。

※ポテンシャル……表面にあらわれてはいないが内部に秘められている、可能性としての力。

※ステレオタイプ……行動や考え方が型にはまっていること。

※コンシャス……意識的であること。気づいていること。「アンコンシャス」の反対の意味。

※潜在意識と顕在意識……「潜在意識」は、活動はしているが自覚されない意識のこと。それに対して「顕在意識」は、はっきりと自覚している意識のこと。

※ワンオペ……「ワンオペレーション」の略。一人ですべての仕事をこなす状況。

問一——線①③のカタカナを漢字に直さない。漢字は一画ずついていないに書くこと。

問二——1に入る表現として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 親近感バイアスの影響を受け、無意識に自分と似た経歴の人、自分の属性に近い人を選びがちです
- イ 正常性バイアスの影響を受け、いかなる事態にも正常な判断を下すことのできる人を無意識に選びがちです
- ウ 確証バイアスの影響を受け、自分がよいと思っている人を無意識に選び、そうでない人は選ばなくなりがちです
- エ ハロー効果の影響を受け、無意識に自分と同じ大学や有名校の出身者ばかりを選びがちです
- オ ホーン効果の影響を受け、実力はあっても有名大卒でないという理由だけで、無意識に選ばなくなりがちです

問三——線(1)「これらの固定観念が『らしさ』に形を変え、他者や自分自身を縛る鎖となり、自由な選択を阻害する要因となっている」とありますが、その具体例としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「女性は管理職を望んでいない」という固定観念が、「管理職を希望する女性は女性らしくない」に変わり、出世して管理職になろうと努力する女性に対して、同僚が「そんなに無理してバリバリ働かなくていいのに」と言ってしまう。
- イ 「短時間勤務の社員は仕事より家庭が大事」という固定観念が、「仕事を大事にするなら長時間働くべきだ」に変わり、短時間で成果を上げようとしている社員に対して、上司が「長時間働けないなら辞めてもらうしかないな」と言ってしまう。
- ウ 「女性は生まれつき、数学の能力が男性より低い」という固定観念が、「女性らしい女性は数学など学ばなくてよい」に変わり、理系の研究職を志す娘に対して、母親が「理系数学はあなたには難しいから、文系を志望するほうがいいよ」と言ってしまう。
- エ 「男性は家事が下手」という固定観念が、「自分らしさを大切にしたいから、ぼくは家事を極めるぞ」に変わり、家事をしようとする妻に対して、夫が「あなたよりぼくの方が家事に向いているから、あなたは仕事に専念してほしい」と言ってしまう。
- オ 「シニアはパソコンが苦手」という固定観念が、「高齢者はパソコンなど扱わなくてよい」に変わり、パソコン業務の担当者となった六十代の社員に対し、若手社員が「これは分かりにくい作業なので、私がやっておきますね」と言ってしまう。

問四 ―線(2)「その野良犬が飼い犬になってしまい」とありますが、「野良犬」が「飼い犬」になるとはどのようなことをたどっているのですか。二十六字以上三十五字以内で説明しなさい。

問五 ―線(3)「最後に『その時間が、いつか宝物になる。』というコピーを入れてしまった」とありますが、このCMの何がいけなかったのですか。その説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母親によるワンオペ育児の姿を描く一方で、父親が登場するシーンを少しも挟まなかったことで、おむつのCMには女性を登場させるべきだというジェンダーバイアスに結果として同調してしまったこと。

イ 父親不在のワンオペ育児の現実を、従来のCMでは描かれてこなかった手法で描いたことで、女性にとって子育ては幸せに満ちた仕事であるというジェンダーバイアスを結果として否定してしまったこと。

ウ 男性不在のワンオペ育児の過酷さに問題意識を持つことなく、それを賛美し肯定する表現をしたことで、家事や育児は女性がやっつけられべきというジェンダーバイアスを結果として後押ししてしまったこと。

エ 母親によるワンオペ育児を美化する一方で、産後女性の死亡原因について触れなかったことで、男性よりも女性のほうが育児に向いているというジェンダーバイアスを結果として認めてしまったこと。

オ 女性によるワンオペ育児の問題点を、視聴者に理解してもらうことができなかったことで、女性だけが家事や育児を担当しなければならぬというジェンダーバイアスを結果として助長してしまったこと。

問六 ―線(4)「積極的にアンコンシャス・バイアスが入る可能性を排除する」とありますが、組織としてそれを実現するために必要となるのはどのようなことですか。七十一字以上八十字以内で説明しなさい。

問七 本文中で述べられた「アンコンシャス・バイアス(Unconscious Bias)」に関する説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人の行動の九割以上は無意識によるものであるため、自分の持っているアンコンシャス・バイアスを意識的に完全に排除することはほと

んど不可能である。

イ アンコンシャス・バイアスは、自分たちとは異なる集団に属する様々な人の機会を奪うことがあり、それが積み重なることが、格差や階層を再生産する原因となっている。

ウ アンコンシャス・バイアスとともにコンシャスなバイアスもあり、両者の境界を厳密に区別することが、自分が差別をしないで済むようになるために必要なことである。

エ アンコンシャス・バイアスが顕在化され人々に共有されるようになると、社会的少数派を排除する方向に働くことがあり、それもインクルージョンの実現を阻む一因である。

オ 差別に反対する平等主義者ですらアンコンシャス・バイアスに影響されるため、自分は大丈夫と思わず、自分の持つ思い込みについて常に検証し続ける姿勢が必要だと言える。

(問題は次のページに続きます)

問八——線(5)「ピアボーナス制度」とありますが、これについて気になったSさんは、インターネット上で【記事】を見つけ、その一部を抜粋し、授業で発表しました。その後交わされた【会話】のX、Zについて、後の【設問】(1)～(3)に答えなさい。

【記事】

ピアボーナスは、会社から従業員に報酬を贈るのではなく従業員同士で報酬を贈り合える仕組みです。報酬といってもお金をやり取りするのではなく、アプリやシステム上で、感謝や評価のメッセージを添えてポイントを送り合います。貯まったポイント(ボーナス)は、会社の用意した商品・特典と交換できたり、インセンティブ制度として毎月の給与とは別に支払われます。

働き方改革の推進により、従業員を取り巻く環境や、従業員の持つ価値観は日々変化しています。そして変わりゆく環境に適応し、人材の定着・離職の防止を実現するために、企業には組織文化の醸成が求められています。このような状況の中、企業が直面している組織改革や人材定着に効果がある施策としてピアボーナスが注目を集めています。

Googleは強いチームを作るために、ピアボーナスを導入しました。チームを強くするために重要なことは「心理的安全性が高いこと」であると、Googleのピープルアナリティクスチームが「Project Aristotle」と名付けられたプロジェクト内で結論づけています。その「心理的安全性が高い状態(チーム内で自身をさらけ出し、思ったままに発言できる状態)を作り出すために、Googleでは従業員同士がピアボーナスで承認しあっています。Googleのピアボーナスは16,000円ほどの現金です。また、ピアボーナスの運用ルールも明確に決まっています。

Googleのピアボーナスのルール例

- ・ 自分の直属の上司に対してピアボーナスを送ることはできない。
- ・ 上司は自分の部下にピアボーナスを送ることはできない。
- ・ ある人にピアボーナスを送った場合、同じ人には6ヶ月間送れない。
- ・ ピアボーナスをもらった人に対しては、6ヶ月間ピアボーナスは送れない。

(株式会社スタメンのHP記事「ピアボーナス制度とは? 4つのメリット・2つのデメリット、企業の導入事例、ツールを(紹介)による」)

【会話】

Mさん…なるほど、ピアボーナス制度を導入すると、組織のメンバーは自分の言動によってXかもしれないと考えてびくびくすることが減りそうだね。それよりも、思い切って提案や批判をしたことで、上司や同僚、部下たちからYが届くかもしれないわけだから、安心して自分らしく、組織への貢献につながる振舞いができるようになりそうだね。

Sさん…うん。それにGoogle社による実際の運用例も興味深いよ。

Mさん…本当だ。これなら、ピアボーナス制度を意識しすぎるあまりかえって身動きがとれなくなってしまう、なんてこともなさそうだね。

【設問】

- (1) Xに入る語句を、本文13ページの中から五字で抜き出して答えなさい。
- (2) Yに入る表現を、【記事】の文章中から十一字で抜き出して答えなさい。
- (3) Zに入る表現として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 各自が送れるポイント(ボーナス)は月額16,000円と、かなり高額なんだ
- イ 心理的安全性を高めるための方策を考えるプロジェクトを、わざわざ立ち上げたんだ
- ウ ポイント(ボーナス)を送れる相手を、自分と同等の役職にある従業員に限定しているんだ
- エ 直接の上下関係にある人には互いにポイント(ボーナス)を送れないようにしているんだ
- オ ポイント(ボーナス)を一度送った人やもらった相手には、二度と送れないようにしているんだ

(問題は以上です)



国語解答用紙

渋谷教育学園渋谷中学校

※らんには記入しないこと

↓ここにシールを貼ってください↓

受験番号									
氏名					性別				

合計得点	
------	--

問一
①
ば
②
③
④
ま っ て

問二	
問三	
問四	

[illegible]

問六	
問七	
問八	

問一	①	
	②	
	③	

問二	
問三	

[illegible]

問五

[illegible]

問七	
----	--

問八
(1)
(2)
(3)

5

2

3

3

303

333

3

✕

5